

うさぎとかめの2回戦

昔話に「うさぎとかめ」というのがあるが、うさぎは競争の途中で寝てしまい、足の遅い亀に負けてしまうのである。これは、かめのように一生懸命がんばれば成功し、うさぎのように怠けると負けてしまうから遅くとも絶えず努力することが大切であると教えている。

そこで、そのうさぎはかめに負けたことが悔しくて、今度はうさぎが、かめに同じ競争を挑むことからこの話が始まる。

かめは、うさぎに勝っているので勝負を断るわけにはいかない。そこで同じ競争をするがうさぎは寝ないのである。うさぎは決して同じ失敗はしない。すると、当然足の速いうさぎが勝つ。何度同じことをしてもかめは、うさぎに勝つことはできない。どんなにかめが努力しても、うさぎに勝つことができないのである。

そこで、かめはいろいろ考え、競争するコースを考えてもらうことをうさぎに頼むのである。うさぎは、何度も勝っているので、かめの申し出を断ることができない。かめは、大きな川の向こうの岸までのコースを選ぶのである。

かめは、川底をスイスイと泳いで向こう岸に着く。うさぎがどんなに泳ぎの練習をしても工夫しても、かめに勝つことはできないのである。

つまり、自分の最も得意とするもの、能力を発揮できるところで勝負することが大切であり、それを見つけることが重要であるというのである。――音田略―― 福島民報 印南知弘氏の話より

この記事を読んだとき、頭の後ろをガンと殴られるくらいの衝撃がありました。まさに、そのとおりで、感動的な話であると思います。

子どもたち、それぞれ運動、勉強で得手不得手があります。大きな声であいさつができる、これも立派な長所です。苦手なことはがんばる、でも得意なことは誰にも負けないという何かひとつ輝いている人になってほしいと思います。